湯前町広報誌[広報ゆのまえ]
Yunomae 04
2016.APR
Vol.418
空へと続く、桜道―。

受け継がれてきた「食」への思いを全国へ

約60年の歴史を持つ「下村婦人会」市房漬加工組合の創業者、故山北幸さんの一生を描いた漫画「山北幸物語『繋ぐ』」の完成報告会が３月16日に湯前町役場で開かれ、検討委員６人が出席。受託者、NPO法人「熊本マンガミュージアムプロジェクト」代表の橋本博さんが鶴田正已町長へ完成した漫画を手渡しました。

うえやまさんが手がけた表紙には優しさあふれる山北さんが描かれている

漫画は「食の安心安全」や「地産地消」など、今も受け継がれている山北さんの思いを食にかかわる多くの人に知ってもらい、交流を広げていくために「湯前町生き残り事業推進連携協議会」（鶴田正已会長）が作成。下村婦人会、（有）ひまわり亭、「ぷらんどぅデザイン工房」の代表らが検討委員会に入り、昨年７月から計８回の会議を経て２月29日に完成しました。

漫画には山北さんの生い立ちから下村婦人会の活動のはじまりなどが分かりやすく描かれている。口絵はうえやまさんが担当

山北幸さんの漫画が完成

漫画を持ち、完成をよろこぶ関係者たち

漫画はA５版、全１１２ページで５００部、各地でのPR用としてA４版・24ページの要約版が５０００部作られました。

山北さんは戦後、貧しかったころに女性の力で生活の質を上げようと下村婦人会を発足。漫画は３章のストーリーと番外編のエピソード２話で構成され、山北さんの生い立ちや下村婦人会の発足から全国展開までの苦労・努力、「市房漬」の由来や「きりしぐれ」の誕生秘話などが分かりやすく描かれています。

ほかにも山北さんの年表や下村婦人会の商品紹介、関係者のエッセイや対談などを掲載。表紙と口絵４ページは漫画「クッキングパパ」の作者で本町にゆかりのある、うえやまとちさん、本編は人吉市在住のデザイナー、織田淳一さんが手がけました。

町長へ漫画を手渡した橋本さんは「山北さんは湯前を代表する人の中でも、たくさんの人に知ってほしい一番の人物。漫画が湯前全体の集客につながるきっかけになれば」と話し、鶴田町長は「このまちで生きていくために何ができるかを考え、行動した山北さんの思いの強さを湯前ならではの媒体で表すことができた。山北さんの思いをつなぐ漫画に夢が広がっている。若者や地元の小・中学生も含め、ぜひたくさんの人に読んでもらいたい」と話していました。

漫画は町内外の公共施設などに配られ、役場で読むこともできます。要約版は個人向けに無料で配布しています。

お問い合わせは産業振興課まで（℡０９６６－４３－４１１１）。

山北　幸さん

プロフィル　大正２年11月21日湯前町生まれ。享年99歳。
戦後で貧しかったころ、暮らしの質の向上や女性の社会自立を目指して、下村婦人会を発足。昭和30年には、すでに「食の安心安全」や「地産地消」を心がけ、地元の農産物を漬け物にして販売。先進的な取り組みや商品が雑誌「暮しの手帖」に紹介され、全国展開へ。平成20年（94歳）に代表理事を退任するまで第一線で「地域」と「女性」を牽引してきた。「安全であること」「ごまかしのきかないこと」「味の良いこと」「価格が妥当であること」という信念は発足から60年以上経ったいまも受け継がれている。平成19年、本町初となる町民栄誉賞受賞。

下村婦人会市房漬加工組合代表
星原　陽子さん（68＝下村）

山北さんは私にとって、リーダーであり、母であり、姑。マンガどおりの偉大な人で、その後を任されたことに大きな重圧もあります。「市房漬」は農林水産省の関係団体から「本場の本物」の認定を受けました。日本人の食生活のスタイルが変わっても、こだわり抜いた下村婦人会の商品が認められたことが自信になりました。これから下村婦人会をさらに進化させ、発信していかなければなりません。山北さんの思いを次の世代へとつなげていくために、みんなで頑張っていきたいと思います。

CLOSE UP
クローズ・アップ
湯前人の軌跡

平成27年度
卒園・卒業おめでとう

湯前中学校 湯前小学校 卒業式
湯前保育園 卒園式

平成27年度第69回湯前中学校卒業式は3月13日、同校体育館で開かれ、卒業生42人が3年間の中学校生活を終え、保護者や教師、在校生たちに感謝の気持ちを伝えて、新しい一歩を踏み出しました。

感謝の気持ちを胸に前へ

涙で仲間との別れを惜しんだ

元気よく返事をして証書を受け取る学生

高田哲弘校長は「あどけない姿で入学してきたが、3年間で中学生としての自覚を持って、良い伝統を後輩につなげてくれた。だれかのせいにせず、自分の言動を反省して次の機会へ活かす。これからも謙虚さと向上心を持ち続け、夢に向かって頑張ってほしい」とエールを送りました。

会場には優秀な成績を修めた卒業生たちの部活動の成績やトロフィーが飾られていました。卒業生の「門出の詩」では保護者や教師、在校生にそれぞれメッセージを伝えました。卒業生が「反抗したり、迷惑をかけたりしたけれど、いつも一番の味方でいてくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝えると、保護者の目から涙がこぼれ落ちました。在校生とも歌やメッセージを交わし合い、一緒に涙を流して別れを惜しんでいました。

全員で湯前中校歌を歌った

門出の詩で保護者や教師に感謝を告げた卒業生

「ありがとう」を伝える涙
湯前保育園卒園式

湯前保育園の卒園式が3月19日に、同園で開かれ、15人の卒園児が東理絵園長から保育証書を受け取り、歌やメッセージで保護者らに感謝の気持ちを伝えました。

涙を流して保護者に「ありがとう」と伝える園児

東園長は「みんなは心も体もたくましく成長しました。これからの生活で難しいことや初めてのことがたくさんありますが、保育園で頑張ってきたことを忘れずにいろんなことに挑戦してください。私たちもずっと応援しています」と卒園児にメッセージを送りました。

卒園児は受け取った証書を保護者へ渡し、将来の夢とこれまでの感謝を伝えました。保護者は「頑張ってね」と温かい言葉を我が子に返しました。涙を流して「ありがとう」と伝える園児の姿に、保護者だけでなく保育士や来場者も感動の涙を流していました。

「おもいでのアルバム」ではスクリーンに写真を映し、運動会や発表会など季節ごとの思い出を発表。新しく作られた湯前保育園の園歌（苗床由美さん作詞作曲）を元気に歌い、卒園児たちは新しい一歩を踏み出していきました。

しっかりと返事をして証書を受け取る園児

志高く、夢への一歩を
湯前小学校卒業式

平成27年度湯前小学校卒業式が3月24日に同校体育館で開かれ、卒業生40人が仲間と過ごした6年間の思い出を胸に、中学校へと旅立ちました。

背すじを伸ばし、まっすぐ前を向いて歩く姿で６年間の成長を伝えた卒業生たち

児童はステージに立ち、担任の教師から名前を呼ばれると、それぞれ将来の夢を大きな声で発表して、西浦大蔵校長から卒業証書を受け取りました。西浦校長は「証書は立派に成長し、さまざまなことに挑戦してきた努力の証。元気・行動・挑戦をテーマに勉強や運動など、学校のリーダーとして頑張ってくれた。夢を実現させるために、ふるさとを大切にしながら、志を高く持って挑戦し続けてほしい」とあいさつしました。

卒業生の「巣立ちの詩」では卒業生が運動会や修学旅行など6年間の思い出を発表。後輩たちへ「湯前小の良いところは、だれにでも元気なあいさつができること。この伝統を受け継いですばらしい学校にしてください」とバトンを渡しました。ＰＴＡ会長の藤岡教顕さんは「伸びた背すじにまっすぐな視線。6年間で立派に成長し、みんなの頑張りでたくさんの人に感動と勇気をプレゼントしてきた。家族、地域、先生への感謝と誇りを胸に、これからの人生を歩んでいってほしい」と卒業生にエールを送りました。

西浦校長から卒業証書を受け取る卒業生

協約に調印し、笑顔の鶴田町長と荒木市長（右）

NO.1

「合志市及び湯前町における連携協約調印式」が3月22日に熊本県庁で開かれ、両市町が進める漫画や農業などの分野で協力することを決めました。

漫画と農業の連携がスタート

湯前町と合志市が協約を調印

調印は漫画や農業など、施策の共通点が多い両市町が連携をとることで、取り組みを強化することが目的です。本町は風刺漫画家、那須良輔さんの出身地として湯前まんが美術館を建設し、漫画フェスタや那須良輔風刺漫画大賞などの取り組みを長年続けています。合志市も農業の振興に加え、産業化を目指して漫画家などを育てる「合志市クリエーター塾」を開催。漫画やアニメだけでなく、薬用植物の産地化にも取り組んでいます。

両市町はこれまで取り組んできた漫画やアニメなどの「コンテンツ産業を活かしたまちづくり」と、薬用植物をはじめとする「稼げる農業の推進」を中心にことし4月から連携をとっていきます。湯前まんが美術館と合志市が検討している「合志市マンガミュージアム(仮称)」などで、お互いの蔵書の利用や漫画イベントの共同開催、私鉄の終着駅である湯前駅と御代志駅(合志市)を活用した観光商品の共同開発や薬草植物の研究・生産の拡大、物産館やアンテナショップでの販売協力などを検討していきます。

調印式には鶴田正已町長と合志市の荒木義行市長が出席し、熊本県の永井正幸理事が立会人を務めました。鶴田町長は「日ごろから合志市の幅広い取り組みに敬服している。これまでそれぞれが培ってきたノウハウを、連携することでもっと上手く表現し、広げていきたい」と話し、荒木市長は「地方間の競争だけでは、今後ますます地域経済が疲弊していく。戦略が合致する湯前町と連携して取り組むことでお互いの発展につなげていきたい」と話しました。立会人を務めた永井理事は「平成26年度に県が制度を設立してから県内初の協約締結。地方創生の実現に向けて、県内に広がっていくように支援していきたい」と話していました。

１年間の活動をまとめて発表した学生たち

NO.2

昨年8月に開講した湯前町のオープンスクール「ゆのまえ大学」の修了式が2月27日に下染田区の空き家で開かれ、まちづくりにかかわり、活動をしてきた大学生たちが成果を報告して修了証書を受け取りました。

大学生らが活動を報告

ゆのまえ大学修了式

同大学は町外からの目線や若者の素直な意見をまちづくりに活かそうと町ICT(情報通信技術)利活用推進協議会が主催。熊本大学や宮崎公立大学などに通う学生18人が参加し、ICTを使った工作体験や漫画フェスタ、苺まつりなど、イベントの企画運営にかかわる活動をしてきました。

修了式では熊本大と宮崎公立大の学生4人がこれまでの活動を町関係者らに報告。学生らが進める、スマートフォンのアプリと連動した「観光マップ」や写真にキャッチフレーズを使って、同大学をほかの学生にアピールするためのチラシ「ゆのまえ大学募集要項」の紹介をしました。報告を終えると鶴田正已町長が学生一人一人に修了証書を手渡しました。

鶴田町長から修了証書を受け取る学生

吉野 百華さん（21＝宮崎公立大）

緑豊かな自然、おいしいご飯やお酒など湯前の魅力にとりつかれました。一番は毎回温かく受け入れてくれたまちの皆さん。湯前に行くと自分の家に帰るような安心感があり、このまちが大好きになりました。湯前の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしいです。

納富 裕之さん（25＝熊本大学）

アプリ開発のものづくりの話やグループでの話し合いの仕方など、社会に出るための勉強ができてよかったです。湯前は地域や住んでいる人のパワーを感じるまちです。一つ一つの歯車がかみ合えば、もっと魅力的なまちになるのではないでしょうか。

NO.3

歩いて奥球磨の文化に触れる

相良三十三観音めぐり健康ウオーク

歩きながら八勝寺を見学する参加者

日本遺産認定を記念した「相良三十三観音めぐり健康ウオーク」は3月6日に、湯前駅レールウイングを発着点に開かれ、約15㌔と約6㌔の2コースに438人が参加し、奥球磨の文化や豊かな自然に触れていました。

相良700年の歴史文化財や風習など地域の宝を再認識するために、ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会が主催し、ことしで4回目。「活き活き満喫コース（約15㌔）」と「ふれあいファミリーコース（約6㌔）」の2コースが用意され、発着点のレールウイングには郡市の特産品などの出展ブースが設けられました。湯前町のイメージキャラクター「ゆっくん」をはじめとする人吉球磨のゆるキャラも駆けつけ、イベントを盛り上げました。

約15㌔のコースに参加した人たちはレールウイングを出発して、多良木町方面から城泉寺や宝陀寺、八勝寺、上里観音、御大師堂などをめぐり、参加記念帳に記念スタンプを押していました。各休憩所には湯前産の漬け物やお菓子などが用意され、参加者は味わいながら奥球磨の豊かな自然を満喫していました。

休憩所には漬け物やお菓子を準備

会場から一斉にスタートする参加者たち

NO.4

世界レベルの技を伝授

龍谷大学柔道部が湯前で合宿

柔道の強豪校、龍谷大学女子柔道部（堀田幸宏監督＝京都府）の部員ら24人が3月16～20日に湯前中学校などで合宿を行いました。17日には湯前少年柔道クラブ（藤岡教顕監督）の子どもたちに技を教えて交流をしました。

得意技を子どもたちへ披露する学生

合宿は明導寺（上里3）住職で湯前クラブの監督を務める藤岡さんが同大学のコーチを務めていたことがきっかけで始まり、ことしで11回目。同柔道部は昨年の全日本学生柔道優勝大会団体の部で3位、個人でも世界大会でのメダル獲得や4月に行われるオリンピックの最終選考に残る選手がいる、世界レベルの強豪です。

学生のアドバイスを受けながら技を積極的にかけていく小学生

部員はゆのまえ温泉「湯楽里」に宿泊し、合宿中はランニング、ウエイト、実践形式などの練習で腕を磨きました。17日の湯前クラブの練習では大学生がそれぞれ自分の得意技を子どもたちに披露。その後、小・中学生と乱取りをして実践で技を伝授していました。小・中学生も大きな声を出して積極的に習った技をしかけていきました。

大学生は慈光保育園を訪れたりカヌー体験もしたりして、たくさんの人と交流を深めていました。技を習った有馬哉人くん（湯前小6年＝上里1）は「力と技が強く、少しきつかったけど一緒にやって楽しかった。得意技で投げることができてうれしかった。来年もまた来てくれることを楽しみにしている」と話していました。

蓑谷ため池でカヌーを体験する学生

尾崎 恵里奈 主将
（龍谷大4年）

子どもたちが昨年よりも強く・大きくなっていて驚きました。この合宿は温泉・食事・環境・人が良いので、大好きです。普段、山を見ないので、山々に囲まれていることも新鮮です。ことしは、昨年の成績を上回り、団体戦で関西一を奪還して日本一になることを目標に頑張りたいと思います。

鍋田 有沙 さん
（龍谷大4年）

私は中学校から柔道を始めました。小学生の柔道が分かりませんが、勝ち負けにこだわって練習するのではなく、純粋に柔道を楽しんでいることに驚きました。「柔道が楽しい」という気持ちが練習を通して伝わってきました。

2月18日(木)

地域や親への恩返し
湯前小卒業生が記念植林

親子一緒に植林を楽しむ参加者

卒業を記念した湯前小学校の親子植林が2月18日、くれないの森一帯の町有林で行われ、卒業生とその保護者約80人が参加し、一緒になって植林を楽しんでいました。

卒業生が植林をすることで、育ててくれた地域や家族への恩返しをするために毎年会場を移して開催。町職員から植え方の説明を聞き終えると、卒業生はクワを持って元気に山の斜面を駆けあがり、スギ・ヒノキの苗木400本を保護者と一緒になって植えていきました。作業中は親子での会話もはずみ、ときどき笑顔がこぼれていました。ことし3月に同校を卒業した木村颯さん(中里2)は「植林は初めてだったけど木を植えるのは楽しかった。植えた木はまちで大切に育ててほしい」と話していました。

2月29日(月)

自分にできることを考える
認知症サポーター養成講座

自分たちにできることを考えて発表した生徒たち

小中学生を対象にした認知症予防サポーター養成講座が湯前小・中学校で開かれ、湯前小6年生32人と湯前中3年生42人が認知症の知識を学び、新しく「認知症サポーター」になりました。

正しい知識を学んで、認知症の人や家族を温かく見守り、支えられる人材を育てようと町が主催しています。2月29日には湯前中で講座が開かれました。人吉市吉田病院の精神保健福祉士を講師に、生徒は認知症の種類や特徴などの知識を学びました。グループに分かれて、当事者や家族の気持ちを考えながら意見を出し合い、「笑顔で優しく声をかける」「自分がそうなったとき、言われたい言葉をかける」などと発表していました。講義を終えた受講生は認知症サポーターに配られる「オレンジリング」を受け取りました。

3月17日(木)

前に進む気持ちを持って
慈光保育園レスリング大会

精一杯の力を出して相手に挑む園児

慈光保育園(藤岡孝史園長)のレスリング大会が3月17日に同園で開かれ、年長児19人が自分の持つ力を出し切って対戦しました。

逆境をはねのけ、前に進もうとする園児たちの気持ちを伸ばそうと毎年開かれています。

1試合2分のリーグ選が男子3ブロック、女子2ブロックで行われ、それぞれの1位が決勝に進出。男子1位と女子1位で総合優勝を決めました。選手たちは元気な声であいさつし、なかなか決着がつかないときは全員で「頑張れ！」と仲間を応援していました。藤岡園長は「全員がきちんと感謝の気持ちを持っていた。負けたら悔しいし、つらい。泣いても良いから、後ろに引かず前に進んでほしい。みんなよく頑張った」と話していました。

3月17日(木)

心のこもったプレゼント
かぼちゃの家が卒業生へストラップ寄贈

笑顔でプレゼントを喜ぶ小学生たち

地域活動支援センター「かぼちゃの家」(東明美施設長)4人が3月17日に湯前小学校を訪れ、卒業生40人に卒業記念として手作りストラップを寄贈しました。

ストラップは同校の卒業祝いとして寄贈。かぼちゃの家では身体・知的障害者が町や人を思いながら小物づくりなどの活動をしています。今回は布と綿を使った、3センチほどのかわいらしい「ふくろう」のストラップを作り、卒業生へ手渡しました。

施設長の東さんは「皆さん卒業おめでとうございます。中学生になっても今までと変わらず勉強や部活動を一生懸命頑張ってください」とエール。卒業生たちは「絶対大切にします」と誓い、笑顔でそれぞれもらったストラップを見せ合っていました。

3月18日(金)

優しい気持ちで寄り添う
傾聴ボランティア研修会

感心を向け、相手に寄り添って話を聴く参加者たち

傾聴ボランティア研修会が3月18日に保健センターで開かれ、湯前町ボランティア連絡会(濱中誠会長)の会員と住民25人が高齢者に寄り添う傾聴の仕方を学びました。

一人暮らしの高齢者などの心のよりどころになれるようにと同連絡会が主催。「傾聴ボランティアくまもと」の金子知美さんと岩崎静香さんを講師として、目を使い、相手と心を通わせる「傾聴」の仕方を学びました。聞き手と話し手に分かれ、傾聴を実践。参加者は「アイコンタクト」「笑顔」「うなづき」を意識して話を聴いていました。

金子さんは「アドバイスや意見を言うのではなく、こういう考え方もあると受け入れる。相手に関心を向けることが大切。まずは優しい気持ちで寄り添ってみて」とアドバイスしていました。

4月下旬ごろ

町内に緑色のサクラ？
4月下旬ごろ、グリーンパレス芝生広場周辺で

緑色のめずらしいサクラは４月下旬が見ごろ

緑色のめずらしいサクラが毎年4月下旬ごろ、ゆのまえグリーンパレス芝生広場周辺で咲いています。

このサクラはギョイコウ(御衣黄)といい、緑色の花を咲かせるサクラです。花が開いたときには緑色をしていますが、次第に緑色が薄れて、黄緑色から黄色になり、やがて中心部が筋状に赤くなります。花の色が高貴な貴族の衣装をイメージさせることからこの名前がつきました。

このサクラを知る亀山哲馬さん(68＝野中田2)は「普通のサクラと色が違うので、なかなか気づきにくいが、めずらしいサクラなのでぜひ町の人にも見てもらえたら」と話していました。

グリーンパレス周辺で
見ることができる

湯前のよかとこ発見！

今月のリポーター　森田　明大

～地域おこし協力隊です～

真っ白な地図に自分の町の特徴を描く

マップ制作ワークショップ

湯前町のマップ制作ワークショップが２月12･13日にサテライトオフィスで行われ、参加者が町内の地図を作りました。

自分たちで地図に情報を入れていった参加者

　地図作成のサイトで、真っ白な湯前の地図に既存の施設や町民行きつけのお店などを自分の手でかき込み、防災マップや町案内などいろんな場面で使える地図を作っていきました。参加者全員で湯前の町並みを思い浮かべながら描いていきましたが、なかなか思い出せず苦戦。みんなで話し合ったり、実際外に出て確認しながら描いていきました。普段何気なく通っている道でも、景色を楽しみながら歩いてみると新しいスポットを発見できるかもしれませんね！

ポン菓子のように食べやすい！

和グラノーラの試食会

苺まつりで行った和グラノーラの試食会

「ゆのまえ和グラノーラ」の商品化に向けての試食会を２月14日、ゆのまえ苺祭りの会場内で行い、来場者にアンケートの協力をお願いしました。

　和グラノーラは湯前で採れたイチゴ･ブドウ･赤米など旬のものを使って、素材の味を生かすことにこだわっています。麦ではなく赤米などを使い、圧をかけてふくらましているのでポン菓子のように食べやすいのも特徴です。

　たくさんの人に食べてもらい、「生姜の風味が良かった」「パリッとしていて焼酎のつまみに良い」などたくさんの意見をいただきました。新しい湯前の特産品となる日が待ち遠しいです！

デザインにもこだわり、パッケージも上品に

協力隊のゆのまえ暮らし（地域おこし協力隊がゆる～く近況報告）

　食品衛生責任者講習会が２月18日、宇土市民会館で開かれ、地域おこし協力隊の二人で食品衛生責任者の資格を習得してきました。食品衛生責任者は、飲食店などの調理営業や販売業に必要な資格です。

　講習内容は食中毒の種類や手洗いの方法、衛生管理など、お店を経営するときに必要なことから日常生活に役立つことまで幅広い内容でした。協力隊として活動できるのが３年ということもあって、将来湯前でカフェを開くなど、定住するための選択肢が増えました。

修了証書をいただいてきました！

中央公民館図書室　読書のススメ

新たな『神様のカルテ』はここから始まる

病院とは24時間365日、困った人がいれば手を差し伸べてくれる場所。この病院では、奇蹟が起きる。二度の映画化、二度の本屋大賞ノミネートを経て、一止とハルさんの物語は原点へ。

神様のカルテ０
夏川 草介（著）　小学館

日本の城の仕組みが分かる一冊

城はなぜそうなっているのか？天守の形や装飾のバリエーション、堀、やぐら、石垣といった防御の仕組みなどなど、お城の魅力を完全図解。

日本の名城解剖図鑑
米澤 貴紀（著），中川 武（監修）　エクスナレッジ

驚きと感動満載のラクワザを紹介！

玉ねぎの辛みは酢水で消える！？レタスは芯に小麦粉を塗って長持ち保存。唐揚げは冷たい油から入れる。etc…タレ、ソース、柚子こしょうなど余りがちな調味料のアイデアレシピも！目からウロコのアイデアが333！今日から実践できるラクワザが満載。

もっとおいしく！ スピーディーに！
おもわず自慢したくなる料理のラクワザ333
島本 美由紀（著）、河出書房新社

夜の暗闇を輝きにするバク

こちこちこち。すうちゃんはよるがこわくて、ひとりでトイレになんかいけません。そのとき、むくり！ ととつぜん毛布がバクになりました。「ぼくがいっしょにいってあげる」さあ、すうちゃんはぶじトイレにいきつけるのでしょうか？

よるです
ザ･キャビンカンパニー（著，イラスト）、偕成社

○平日８：30～17：00
○土日･祭日９：30～17：00
　※貸出期間は２週間で、一人５冊まで。
　〈お問い合わせ〉中央公民館
　（TEL 0966-43-2050）

ECOLOG　３月のごみ情報

２月末人口：4,152人

種類	先月分	今月分	昨年の２月分	増減
燃えるごみ（kg）	57,770	55,700	52,310	＋3,390
燃えないごみ（kg）	3,050	3,550	3,270	＋280
リサイクル品（kg）	10,170	11,300	10,400	＋900
粗大ごみ（kg）	270		820	
有害ごみ（kg）	70		20	

引っ越しのごみは、正しく分別して計画的に出してください

　春は転勤、進学などで引っ越しが増える季節です。家庭のいらなくなった家財道具やごみは正しく処分してください。粗大ごみは直接、人吉球磨クリーンプラザへ持ち込みましょう。古雑誌や段ボールなどリサイクルできるものは、ひもでしっかり結んでリサイクルステーションに出してください。

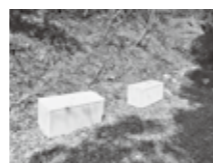
　各市町村でごみ出しのルールが違います。ルールを守り、衛生的な共同生活を心がけましょう。

リサイクルステーションからのお願い！

布類の出し方

ビニール製品･わた製品（雨合羽、わた入れ、枕、クッション、ぬいぐるみ）は燃えるごみに出してください。

不法投棄は犯罪です

　５年以下の懲役か１千万円以下の罰金、これらが併科されることもあります。見つけ次第、警察に相談し、調査をします。絶対にしないようにしましょう。

※４月の不燃物収集は **６日** と **20日** です。（第１･第３水曜日）
※４月29日（金）祭日は、ごみ収集はお休みですので注意してください！

一人一人の意識が、ごみを変えていきます。ご協力をお願いします。

婦人会だより No.36

個人会員、支部復活OK！
入ってみらんね、婦人会に

湯前町地域婦人会
会長 橋田 實子

2月21日（日） 青年団とのゴミ拾い

青年団と一緒に湯楽里からフルーティーロードでゴミ拾いをしました。最近は皆さんのマナーもだいぶ良くなって、思っていたよりも少ない量でしたが、中には悪質なゴミの捨て方をしているものもありました。

3月6日（日） 会員研修「湯前町再発見」

町のマイクロバスを借り、御大師堂–下町橋–普門寺–八勝寺–城泉寺–宝陀寺–上里の町観音堂–まんが美術館–湯～とぴあのコースを回りました。たくさん参加していただき、ありがとうございました。

3月11日（金）
支部長会（年間の反省、次年度の要望など）

支部長さん1年間いろいろお世話になりました。新年度も楽しい事業を計画し、たくさんの人にご協力をお願いしたいと思います。

4月の行事

4月3日（日）
午前9時～ 郡婦連総会
午後1時～
福祉チャリティーショー
あさぎり町深田 せきれい館

4月6日（水）
午前10時～約1時間
春の全国交通安全4カ町村合同キャンペーン
農村環境改善センター
※たくさんの参加をお願いします。

4月13日（水）
午後7時～ 町婦人会総会
講演：多良木警察署 生活安全課
（振り込め詐欺、悪質商法などの実態について）

戸籍の窓

平成28年2月1日～2月29日届出分

ご結婚おめでとう

♥ 蓑田 圭介（下村）
礒部 理恵（菊陽町）

♥ 中田 潔裕（上染田）
那須 和葉（多良木町）

♥ 曽根川 純也（広島県）
白川 紗織（下里）

たんじょうおめでとう（うぶごえ）

（保護者名）
柴田（しばた） 眞守（まもる） 幸治（浜川）
中原（なかはら） 茉優（まゆ） 広樹（下村）
吉村（よしむら） 華帆（かほ） 壽夫（中里2）

ご冥福をお祈りします

濵崎 健雄（下染田）
神瀬 ミワ（野中田2）
那須 三千代（古城）
永濵 勉（上里3）

香典返し

地内 正巳（植木）
本村 安広（馬場）

保健師だより

笑顔で楽しく子育てをするお母さんたち

毎週、子育て中のお母さんたちが集まっています♪

平成27年度、町内の就園前の子どもを育てるお母さんたちの交流・仲間づくりと、不安や孤独感のない楽しい子育てを目指して、子育てサークル「にこにこサークル」を始めました。定期的に集まってお母さんたちが料理や季節の飾りものの制作など、いろんな活動をしています。現在、住民の皆さんに協力してもらって、お母さんたちの楽しい子育てと子どものすこやかな育ちをお手伝いしています。今年度は基盤をつくるために補助事業を使って、特に充実した内容になりました。

住民の皆さんの温かなお手伝い

お母さんの仲間づくりやリフレッシュの機会、子ども同士のふれあいの機会として、ぜひ参加してみませんか？遠くからいらっしゃったお母さんや里帰り出産をしたお母さんも、「にこにこサークル」で仲間と一緒に楽しく子育てしてほしいと思います。初めての子どもを妊娠中の人も、気軽に遊びに来てください。

子どもたちも仲良く交流

にこにこサークル

日時▶ **毎週火曜日 午前10時～12時**
場所▶ **保健センター 母子指導室**
※日時は都合によって変わることがあります。電話で確認してください。
（問い合わせ先） 保健福祉課 東 和美 ☎ 43－4112

〈湯前町保健センター 文責 東 和美〉

［今月の表紙］
始まりの春は花が咲き誇り、色とりどり。湯前まんが美術館の前の桜並木もきれいな花を咲かせています。少し下からサクラをのぞいてみると、そのサクラは空まで届きそうなほど伸び、あざやかに咲いていました。

編集後記
editorial note

▼広報担当4年目になりました。作った広報誌は36冊。ふと懐かしくなり、最初の一冊目をめくって当時を思い出してみました。写真や文章の知識はなく、何とか形にした広報誌。それが手元に届いたときの感動。私の宝物の一つです。「他人を楽しませるには自分から」。初心を忘れず、いろんなことに挑戦したいと思います。
▼湯前保育園の卒園式で涙ながらに保護者へ「ありがとう」を伝える園児の姿に私もぐっと涙をこらえました。子どもたちが家庭や保育園でどれだけの深いきずなをつくってきたかは、その涙を見れば一目で分かります。良き親、良き保育園、良き地域。私たちのまちには子どもたちが立派に育つ環境があるのではないでしょうか。
▼いよいよ春本番。見ごろのサクラや菜の花もいつの間にか散ってしまいます。いつもシャッターチャンスを逃してしまうので、春が逃げないうちに出かけたいものですね。 （宏）

yunomae 04 Vol.418 APR.2016
湯前町広報誌

発行／湯前町役場総務課 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1
発行日／平成28年4月1日 印刷／(有)ソーゴーグラフィックス

幸さんの思いはつながっていく―。

【下村婦人会の理念】

一、安全であること

二、ごまかしのないこと

三、味の良いこと

四、価格が妥当であること

「仕事でも家庭でも、食べ物を扱うことは命を扱うこと」。

幸さんは食べる人の喜ぶ姿を思い描き、「食」に心を込めた。

このまちで生きていくための智恵や工夫に惜しまぬ努力。

食にかかわるすべての人へ、知ってほしいストーリーがある。

幸さんの思いは、次の世代、また次の世代へつながっていく。

※ご意見投稿はこちらから

活き活きと輝き、誇れるまちゆのまえ
広報ゆのまえ４月号
TEL 0966-43-4111 FAX 0966-43-3013
URL http://www.town.yunomae.lg.jp/